

# 南 棺

## 墓穴の大きさ

長さ 約12m 幅 約 4 m

## 木棺の大きさ

長さ 約9.3m 幅 約1.1m

さんかくぶちしんじゅうきょう  
三角縁神獣鏡 (直径21.4cm)

縁の断面が三角形をしており、神様と獣の模様があることから、この名前がついています。ヤマト政権から同盟を結んだものに贈られたものと考えられており、東北地方では大塚山古墳でしか発見されていません。いかに大塚山古墳の主がヤマト政権から重要だと思われていたかがわかります。

獣の像  
れいりよく  
特別な霊力を持った獣



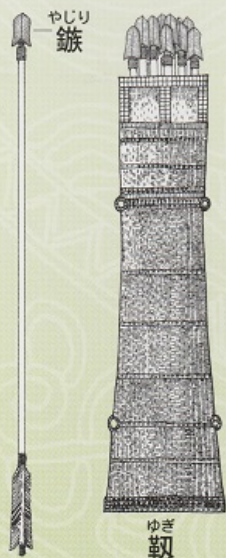
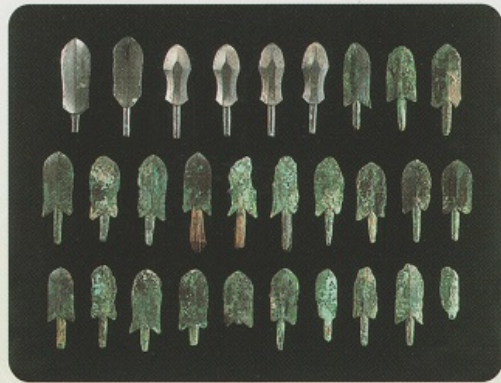
神と霊獣を描くことにより、古代中国の神仙思想という、不老不死を願う特別な意味がこめられています。



神の像  
ふろうふし  
不老不死の神様



矢を入れて背負う道具です。鍬を上に入れます。織物の上に漆をぬっています。中に青銅製の鍬が29点、鉄製の鍬が20点入っていました。



(イメージ図)

へんけいしじゅうきょう  
変形四獣鏡 (直径9.5cm)



デザイン化された獣の像が四体描かれています。

さんようかんとうち  
三葉環頭大刀 (長さ1.2m)

頭がわかかになっていて、その中に3つの葉の模様がある大刀。全国的に見ても出土数が少なく、ヤマト政権から贈られたものと考えられます。



まがたま  
勾玉 (長さ2.7cm)



穴があいており、首飾りとして使われたと考えられます。